

トルコギキョウ県オリジナル品種 育成は『F1育種』で行います

本年度からトルコギキョウ県オリジナル品種の新たな育成手法として『F1（一代雑種）育種』に着手し、7月には生産者、生花店、地元市場、関係機関等による求評を行いました。

《現状》

県オリジナル品種（SO）は、本県のトルコギキョウ作付面積のおよそ25%を占め、トルコギキョウの生産振興上の重要な戦略的品種です。SOは、固定種であるため茎葉が堅く、日持ちが良いなど優れた点がある一方で、発芽勢*や生育揃いの点に課題がありました。近年は、本県でも収益性の高い秋出し作型が増加しています。しかしながらSOは、秋出し作型に適応できる品種が2～3種と少なく、新に適応可能な品種の育成が強く要望されていました。

そこで、今年度よりそれらの要望を満たす品種を育成する手法として『F1育種*』に着手しました。

※発芽勢：一定期間内に発芽した数を、全ての発芽数で除した割合。発芽揃いの程度を表すもの。

※F1育種：異なる品種・系統を交配させて得られた世代（F1）を利用する育種方法で、形質や特性の改善、生育の旺盛化や均一性の獲得も期待できる方法です。

《取組状況》

予備試験の交配で得られたF1（45組合せ）が開花した7月に、トルコギキョウプロジェクト生産部会による求評会が開催されたところ、参加された生産者、生花店、地元市場、関係機関等は、ピンクのフラッシュ八重や紫八重の系統（写真2）への関心が高いことが分かりました。

今後は、求評会で得られた結果を参考に一次選抜（写真2）を行うとともに、新たな組合せによる交配を進め、生産者、流通・消費者、関係機関等の要望に応えられる‘新たなオリジナル品種’の育成を進めて行きます。



写真1 求評会の状況

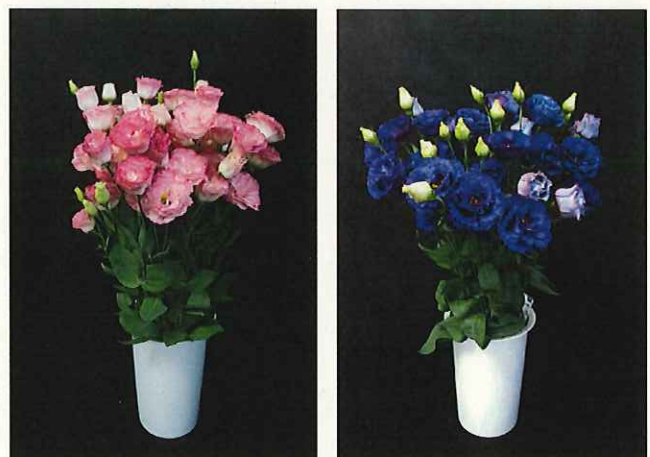


写真2 オリジナルF1の一例

問い合わせ先：資源環境研究部特産開発科（担当：女鹿田博之、塚本俊秀、稲村博子）

TEL 0853-22-6741 E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp